

街
じぐく

ドイツのデュッセルドルフは人口およそ五十八万、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の中心地商業のぎわいが、薫りが漂う古い建物に小さな商店が連なる。

薰りが漂う古い建物に
小さな商店が連なる。
中心地商業のにぎわ

旧市街地はビアホール、イルどすみやバー、レストランが軒を連ねることから、「ロングテネ」となっている。

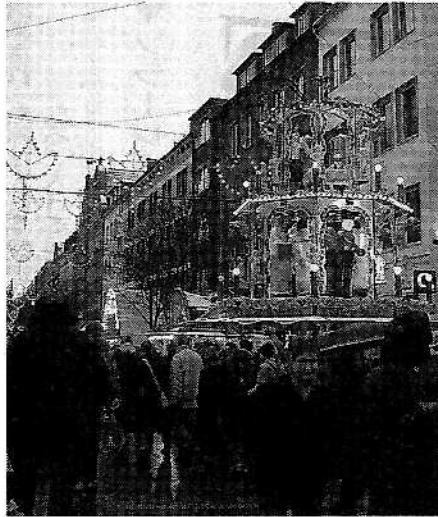
クトで買い物がしやすいことと、次に、旧市街地はいつい上質な外観デザインだ。も活気があり、生活の利便の一つ、セブンスはカバン街並みの連続性を切らさない。

りし、生花店、空港、中止
駅構内の商業を除き、営業
は禁止されている。しかし

ープル」（世界一長いカウンター）といわれ、おいしいアルトビール（地ビール）の好きなところを聞いたとハム・ソーセージの郷土料理が味わえる。郊外には大きなショッピングセンターが存在するが、中心市街地の生活スタイルには大きな違いがある。日本では、多くの人が車で通勤するが、一方で、多くの人が自転車や歩行者で移動している。また、公共交通機関も充実しており、バスや電車での移動が一般的である。また、日本の都市は、緑豊かな公園や広場があり、人々が休憩したり、運動したりする場所として利用されている。一方で、日本の都市は、高層ビルや摩天楼が立ち並ぶなど、建築物の高さや密度が高く、これがまた、日本の都市の特徴である。

市民には何ら不便さは感じられず、利便・効率優先よりも、より良い社会をつくる秩序を重んじているように映る。

市電行き交う等身大の街



山車が練り歩くクリスマスシーズン

方の中心都市である。半径五十キロメートル圏内に約九百万人を抱え、ビジネス適地として様々な企業が本社や支店を置いている。日本企業も多く進出し、独で日本人が最も住む街（七千人超）である。毎年いくつかの国際見本市が開催され、年間二万五千の企業が出展、百七十分人の来場者が世界各地から訪れる。

また“小さなパリ”と呼ばれ、洗練されたファッショントリニティ街が形成され、旧市街地の歴史と伝統、生活文化の

面電車を生かした都市政策を確立している。LRTの独版であるシユタットバーンが中心部と郊外をくまなく結び、延長はポートランドの約二倍にあたる百四十六キロメートル。自動車よりも、路面電車や徒歩のほうが街を十二分に楽しむことができる。そぞろ歩くと、ウイングドーショッピングだけでなく、州立美術館や市立美術館、ゲーテ博物館、二十以上の演劇場などの文化施設に遭遇する。

独デュッセルドルフ

► 3 ◀

地域パワー

には都市型の専門店モールもいくつかあるが、どれも

商店法では「曜・祭」には飲食店、キオスク、ベーカ

(商い創造研究所
代表取締役 松本大地)